

玉井小だより

平成28年3月15日

大玉村立玉井小学校
TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

登校班の班長さんが替わりました



【登校班の新しい班長さん】

3月1日から、集団登校の班長が替わりました。2月末には、登校班の班長会議が行われて、班の旗が新しい班長さんに渡され、あいさつの仕方や横断のときに止まって下さった車の方へお礼を言うことなどが、しっかりと引き継がれました。

新しい班長さんは、少し緊張気味ですが、毎日、胸を張って力強く歩いています。まだ慣れていないので、歩くのが速すぎて、下の子供たちが少し遅れてしまう班もあります。また、逆に下の子を思いやって、ゆっくり歩いて、普段より学校に着くのが遅くなったりする

班もあるようです。新しい班長さんの一生懸命な気持ちが伝わってくるようです。

保護者の皆様、地域のみなさま、登校する子供たちの姿を見かけたときには、是非声をかけて下さるようお願いいたします。

宮沢賢治の『^{けんじゆうこうえんりん}度十公園林』を6年生と読む

3月8日(火)、9日(水)、6年生と宮沢賢治の童話『^{けんじゆう}度十公園林』を読みました。宮沢賢治は明治29年生まれです。マチュピチュの野内与吉さんが、明治28年の生まれですから、野内与吉さんの一つ下ということになります。

賢治は『銀河鉄道の夜』や『雨ニモマケズ』など、たくさんの作品を残しました。『度十公園林』もその中の一つです。

度十という少し変わった男が、ある日、突然杉苗を700本買ってくれと母親に言いだします。次の日、杉苗を買ってもらった度十は、優しい兄に手伝ってもらい、後ろの野原にその杉苗を植えます。固い粘土の土地に杉苗を植えるなんてとばかにされ、村人からはまったく理解されませんでした。しかし、時間が経つと、その杉の林があまりにもきれいなものだから、たくさんの子供たちが集まるようになります。杉を植えた度十は病気で亡くなりますが、何年か経つと、その杉林は、たくさんの人に幸せをもたらす立派な公園林にな



【遠藤雅憲先生と6年1組の子供たち】



【薄多美子先生と6年2組の子供たち】

〈裏へ続きます〉

ったというお話です。

そして、宮沢賢治は物語の最後のところで「ああ、まったく誰が賢くて、誰が賢くないかはわかりません」と書いています。

全文を読んだ子供たちの感想です。

○ （話を聞いていて）はじめは、ただ公園林の中はどうなっているかの説明だと思ったけど、悲しみや楽しさがじんわりくる話でした。また、虔十が死んでも、まだ杉が生きているので、命は受け継がれているということがわかりました。

（後藤 奈菜）

○ 虔十の杉を絶対に育てるという熱意が伝わって来ました。虔十が亡くなってからも、虔十の杉に対する思いが、大きく育った杉を通して、みんなに伝わったから『虔十公園林』ができたのだと思いました。

（鈴木 凜）

○ 僕は、虔十は自然が好きで、平二に杉を切れと言われても、「切らない」と、きっぱり断っていたところがすごくいいと思いました。みんなには、馬鹿と言われても、自分がやりたいことを、めげずに、成し遂げていたので、すごいなと思いました。

（小澤 遥都）

私は、大玉村の「いぐね」も、たくさんの人に ^{さいわ} 幸いをもたらす虔十公園林のように思えます。

宮沢賢治は、37歳の若さで亡くなりますが、最後まで『本当に正しいことは何なのか、本当の幸いは何なのか』ということを考え続けた人だと言われています。

6年生のみなさんには、これからも「考え続ける」ことを大事にしてほしいと思っています。

卒業を前に、6年生と素敵な時間を過ごすことができました。

『玉っ子 みんなで チャレンジ』

昨年12月から先生方で平成28年度の教育活動の重点について繰り返し話し合いをしてきました。そして、その重点を『玉っ子 みんなで チャレンジ』とすることにしました。

2月23日のコミュニティ・スクール委員会でも説明をさせていただきました。

『玉っ子』として、ふるさと大玉村に誇りを持ち、仲間と一緒に様々なことにチャレンジしてほしい。そして、たくましく未来を切り開いてほしいという思いが込められています。

一人ではできなくても、『みんなでチャレンジ』すればできることもあります。仲間と一緒に乗り越えられることもあります。

集団で学ぶよさが、そこにあります。

保護者の皆様、そして地域のみなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。



【友達がいるから】